

新宮山彦ぐるーぷ第2144回

玉置神社南表参道の倒木処理と松平集落跡整備

- ◇ 実施日； 8月25日（水） 晴
◇ 参加者； 山川治雄、西克、高階美根子、梶野照雄
4名



山川治雄世話人には玉置川旧松平集落手前鉄階段上6〜7分先の旧玉置街道において倒木処理作業中、不慮の事故により76歳を以て死去されました。

平成28年11月20日の初参加以来、ほぼ毎回ご参加を頂き維持管理活動に精々励まれ多大なご貢献とご協力を頂きました。ここに衷心より感謝、ご慰労申し上げます、ご冥福をお祈り申し上げます。

なお、通夜は8月28日（土）

葬儀告別式は8月29日（日）

JAMEMORIALホール南紀熊野斎場にて相済ませました。

喪主はご長男、山川優也氏

（記：沖崎）

8月25日の事故経緯

午前9時19分に玉置辻に着く。西さんの車で3人が待っていた。準備をして9時半に歩き出す。20分ほどで鉄階段に到着して山道に入る。10時3分に現場到着。

西さんと高階さんには玉置神社まで行ってもらおう。

山川さんと二人で少し斜面を登り、倒木の状態を確認する。

山川さんが上手から、私が下手からチェーンソーを入れて、10時3分、谷側を切断。

10時11分、山側を山川さんが半分切断してチェーンソーを置いた。次に下手の私が切断しようとしたとき、倒木が少し動いたので、

急いで登山道を下に走った。

約20秒後、下から現場を見ると、残っていた倒木は谷に落ちていた。上にいるはずの山川さんの姿が見えない。

落ちてくるものが無いか確認しながら現場に戻った。

山川さんは登山道から2.5mほど下の斜面に頭を上にしてうつ伏せに倒れていた。すぐにそばに降りて声をかけるが返事は無い。被っていたヘルメットと眼鏡を外して顔を近づけ呼吸の状態を確認する。その後左胸に手を当て鼓動の確認を行ったが、呼吸、鼓動共に確認できなかった。

すぐに119番に通報。電波の状態が悪く、現場から20〜30mの範囲を移動して繋がる所を探す。弱いながらも繋がった119番は熊野市の消防だった。十津川の土地勘が無く「本宮辻」と言っても全く理解されない。その後十津川の消防に転送してもらって、ようやく連絡が出来た。しかしこの場所では通話が不安定で、確実な連絡ができないのと、消防からも確実に通話ができる場所に移動してほしいと要請があったので、現場を離れて本宮辻まで駆け足で戻った。

本宮辻でも電話は圏外だったので、林道を北に進み玉置神社への三差路迄行って、10時51分再び119番に電話する。今度は十津川の消防に繋がり、おまけに本宮辻や鉄階段を熟知した方がいて、通報内容は完全に理解された。次に沖崎さんに電話して概要を伝えた。11時2分、こちらに向かっている消防隊員から電話があり、後20分ほどで三差路に到着することだった。

10分程経って救助隊、救急車、警察官が到着し、後続部隊を5分ほど待ってから玉置辻に戻った。

玉置辻には西さんと高階さんが戻っており、事故現場の状況を理解されていた。

12時、消防隊員と警察官と一緒に現場に向かう。

12時28分現場到着、消防隊の作業と警察の検証を離れた場所から見守る。

12時46分、山川さんは登山道のレスキューボートに収容された。

13時7分、鉄階段を下りて林道にレスキューボートが置かれた。すぐあとに沖崎さんが到着して、レスキューボート上の山川さんと対面した。



事故直前の山川さん

消防隊によって運ばれる

ヘリに収容

13時21分、奈良県の防災ヘリが上空に着き、隊員一名がホイストで林道に降下した。その後もう一名が降下し、レスキューボートの場所を移して、13時44分レスキューボートはヘリに収容された。

14時12分玉置辻に戻った。手早く昼食を済ませて十津川警察庁

舎に向かう。十津川警察庁舎で事情聴取を受ける。約2時間の事情聴取の後、作成された供述調書にサインして警察の聴取は終わった。17時だった。

ここには当日の私の行動を記載しました。推測や感想は書き加えていません。時間はデジタルカメラのタイムスタンプと携帯電話の通話履歴を基にしています。

(記・梶野)

山川治雄氏

熊野市有馬町46
25-28、お好み店
「やまちゃん」店主
山川治雄氏は25日午



【在りし日の山川さん】

後2時41分、76歳を以つて逝去した。通夜は28日午後6時から、葬儀告別式は29日午後1時から、それぞれ有馬町のJ.Aメモリアルホール南紀熊野斎場で営まれる。喪主は長男 優也(ゆうや)氏

筆史

昨年亡くなった父・醇太郎の狩猟仲間を、長年にわたる友人だった、有馬町中の茶屋でお好み店や「やまちゃん」を営む山川治雄さん(76)は、本当に自然や山を愛する方だ。東紀州地域で山のことに関して、山川さんの右に出る人はいなかった。何十年にわたり熊野古道や近隣の山などをポランティアで清掃、整備に汗を流してきた。

◆10年ほど前に、山や沢登りなど郷土の自然を友とする有志らで「ふるさとを美しくする会」が発足。山川さんは代表として尽力し、毎月有馬町の国道42号添いの有馬松原防風林の下刈り作業など整備に汗を流し、林野庁や市、地域住民らから感謝されてきた。2016年には国が積極的に美化活動を行っているポランティア団体を表

彰する「全国森林レクリエーション協会」賞に輝いた。長賞というすごい賞にも輝いた。◆そんな山川さんの訃報に接したのが25日午後、驚きとショックと悲しみで言葉が出なかった。山川さんは25日、早朝から仲間たちと奈良県大峰奥叡道の整備に出かけた。古道を散策する人が安心して歩けるようにと、この日もポランティアで木の伐採や道の整備に汗を流していた。その作業中に伐採した木が倒れ落ち、胸を強打するという不慮の事故で帰らぬ人となった。

◆長年にわたる、地域の山々や森林、世界遺産となった地を、ポランティアで命を懸けて整備していただけに、地域の大功労者、あまりの突然の訃報に、ご家族の悲しみはいかばかりか。地域にとっても本心に惜しい偉大なる方を失った。◆濃厚誠実で人情味あふれる優しい人柄だった山川さん。家族や友人、常連客、地域の人たちに信頼され愛された。父が亡くなった際、お悔やみに駆け付けてくれ、父の顔に触れて「今までホンマに涙を流してくれなかった姿が忘れられない。在りし日のお姿を思い出し、数々のご厚情に感謝しつつ、心よりご冥福をお祈りいたします。(令和3.8.27. 隆)